



ほった・かず 1931年生まれ、八幡台2丁目在住。裏千家淡交会熊本支部所属。趣味はお茶と花づくり。

茶道家

堀田かずさん

「心を込めてたてたお茶を喜んでもらえるのがうれしくて、66年間、夢中でやってきました」と、目を細めるのは茶道家の堀田かずさんです。伝統的な作法でお茶をたて、おもてなしの心でお客さんにおいしいお茶を振る舞ってきました。

花嫁修業として17歳からお茶を始め、子育てが一段落した45歳のとき、お茶の先生になりました。「茶席を一緒に盛りたててくれる弟子やお茶を飲んでくれるお客さんがいてくれるからこそ、楽しく過ごさせてもらっています」と、にこり。専業主婦として家庭を守ってきた堀田さんにとって、お茶で気持ちと和ませるひとときは大切なリフレッシュの時間でもあります。

お茶会のたびに、堀田さんは使う道具や会場の雰囲気づくりに心を尽くしています。そのとき集った人たちと作り上げた茶席で過ごせる時間は一度つきりです。そんな茶席での一期一会の出会いがすっかり生きがいになりました。

「お茶は自然の持つ魅力を教えてください」趣深い雰囲気

の中で、季節の菓子を味わい、季節の絵柄の茶碗を使うなど、お茶は四季を感じさせてくれます。毎朝、朝露に濡れた庭の花に癒されているという堀田さん。お茶と同じ時期にお花を始め、70歳までお花の先生を務めていました。そのこともあり、花が色づき、やがて散っていくさまへの感動はひとしおだそうです。「若い人は忙しいと思うけれど、日本には四季があるのです。たまには季節の移ろいに目を留めてほしい」と、微笑みます。

亭主としてお茶を振る舞うとき、堀田さんは相手を立てて、接するように心掛けてます。「へつらうのではなく、普段から一歩引いて、相手を立てることで、争いごとは避けられます。お茶をたしまなくとも、お茶の心だけでも知っておいて損はありませんよ」と、人生の後輩へアドバイスを送ります。

「これからも自然を慈しみながら、お茶をたて、できる範囲で長く楽しみたい」凛と咲く花のようにしなやかで、どこか奥ゆかしい女性の姿がそこにはありました。



1 平成24年の初釜（年始めの茶会）。前列中央が堀田さん。弟子をはじめ、たくさんの人の支えのおかげで、昨年、「エイジレス・ライブ及び社会参加活動実践事例」に選ばれました。2 夫・孝志さん手作りの香合（茶室でたくお香を入れるための器）。孝志さんは茶席の設営なども手伝ってくれていました。3 平成20年、金婚式を家族でお祝いしました。前列中央が堀田さん夫妻。